

特集 文教施策の進展

●平成3年度の展望

解説	■総説	6
	文教施策の総合的推進／文教関係の税制	
	■生涯学習の推進	8
	生涯学習の概況／生涯学習の基盤整備／生涯学習と学校／社会教育の振興	
	■初等中等教育	12
	初等中等教育の概況／教育内容・方法の改善／生徒指導の充実／健康教育の充実／国際化・情報化への対応／高等学校教育の改革／幼稚園教育・職業教育・特殊教育の振興／よりよい教科書の提供／学級編制の改善等教育条件の整備／教員の資質能力の向上／海外子女教育・帰国子女教育の充実／同和教育の振興	
	■高等教育	24
	高等教育の概況／大学設置基準の大綱化と自己評価システムの導入等／大学院の充実と改革／高等教育の整備の在り方／社会的要請を踏まえた人材養成／大学入学者選抜の改善／国立大学の整備等／育英奨学と就職協定	
	■私立学校	30
	私学助成	
	■学術研究	32
	学術行政の概況／科学研究費補助金の拡充／若手研究者の育成／学術研究体制の整備／重要基礎研究の推進／学術研究の社会的協力・連携の推進	
	■国際交流・協力	36
	国際交流・協力の概況／教育・学術・文化等の国際交流・協力／留学生交流の推進／外国人に対する日本語教育の振興	
	■スポーツの振興	40
	スポーツ行政の概況／生涯スポーツの充実／競技スポーツの振興／学校における体育・スポーツの充実	
	■文化	44
	文化政策の概況／芸術文化の振興／国語・著作権・宗務／文化財の保存と活用	
資料	■平成3年度予算額	48

■知の宝庫—博物館	
名古屋市科学館生命館	1
■まつり風土記高山祭り(岐阜県)	4
■名作シリーズ浮絵三囲之図	表紙2
■文化財紹介	
小千谷縮布・越後上布	表紙3
■ニュースポーツ・レクリエーション	
フライングディスク	54
■人・この道小島 功	56
■わがまちの教育・文化⑬	
大分県湯布院町	57

■焦点—文教施策	60
■ことばの小箱／やさしい教育用語の解説	70
■私の選ぶ一冊	田村 誠 71
■ふるさとのうた美しき天然	72
■科学のひろば国立極地研究所①	74
■海外教育ニュース	76
■郷土に生きる教育家群像⑭長崎県	78
■鑑賞席ドイツ・トゥルファン探険隊	
——西域美術展	82
■読者からのたより／お知らせ	83
■編集後記	84

頭上をB26が飛んでいる防空壕の中で「漫画なんか描いてメシが食えるのか?」「わかりません、もう一、二年で兵隊にとられて死んじゃうかも知れないし……」近所のオジサンたちが心配してくれての会話である。

その夜、家を焼かれた。本がグレイの灰の山となって、その山にチューブから破裂した絵の具が鮮やかな色を吹きつけていて、極彩色の焼け跡ができていた。もう漫画は描けないなと思った。

浅草寺一山の妙徳院に転がりこんでいた夏、真青な空をおおぎながら終戦の詔勅を聞いた。なんとなくこれから漫画を描ける時代がくるような予感がしてきた。

戦場から先輩の漫画家が復員し、疎開していた漫画少年も次々と東京にもどってきた。花川戸のバラックの中で勉強会が始まり、空腹なのに元気な日々が続いた。

それから一〇年。「漫画でメシが食べられるようになったね」と、近所のオバサンが言ってくれた。

漫画ブームが週刊誌を中心ににぎわう。戦後の大人漫画の最盛期になった。一時週刊誌の連載だけで一四本描いていたこともあった。発行部数が増えるにしたがい読者の底辺が広がって、漫画の質も問題になってきたが、

大人漫画を描きつづけて



小島 功



こじま・こう 昭和3年生。東京都出身。太平洋美術学校中退。漫画集団同人。日本漫画家協会常務理事。第14回文春漫画賞、紫綬褒章受章。「仙人部落」、「日本のかあちゃん」、「絵本美しのひめみこ」ほか。

一方一匹狼的な漫画家にも社会参加を求められ、著作権問題、健康保険の加入等々、机の前に座っているだけではすまなくなった。微力ながら火付け役の一人として日本漫画家協会の設立にかかわり、日本中の漫画家が初めて一つになり、やがて大勢の力で法人化もしたのである。

そして十余年。文春漫画賞をいただいた晩。「功ちゃん、もうエロチックな漫画は描くなよ! 賞をもらったんだから」と先輩が言った。

それでも人間を描いていればエロチズムもSEXも入り込んでくる。描かないとウソになる。そして二〇年。

大人漫画を描き続けてきた私に紫綬褒章(平成二年秋)の話があった。漫画家としては九人目とかいう。

昭和生まれの者には褒章と勲章がゴツチャになってピンとこない世代で、知人からの祝いに戸惑うばかりだった。家人も「それなに? お金くれるの?」という始末。大勢の人にお祝いをいわれ、家中花でいっぱいになるころ、「こりや大変なものをいただいたんだ」という実感がわいてきた。これは漫画家が社会的に評価されたときにぶつかった幸運であり、好きな仕事を続けられた社会に感謝している。

特集 ●文化財の 保存と活用

●座談会 文化財保護と地域社会

(出席者) 秋田 豊 / 都築 健 / 岩瀬良三 / 三隅治雄 / (司会) 小林孝男

●随想

二つの無形文化財について

上山春平

●論文

近年の考古発掘の成果

須田 勉

町づくりを活かす文化財

三宅正廣

●エッセイゲーターの「色彩論」にみちびかれて

志村ふくみ

●体験記 東大寺仁王像の修理を終えて

●現地ルポ「ふるさと歴史の広場」

人への道

中村邦子

わがまちの教育・文化

さむらいマラソン(安中市)

郷土に生きる教育家群像

岐阜県

ニュースポーツ・レクリエーション

シャフルボード

編集後記

▽今月号の特集は、文教施策の進展として、平成三年度の文教施策について、関係局課に執筆を願った、内容を紹介しております。これらの施策が読者のみなさまに直接関係するものではないと思いますが、我が国の教育・学術・文化・スポーツの各分野における施策の推進を、文部省がどのように取り組もうとしているのか、この特集を通じて知っていただけるものと思います。

夢と希望を読者のみなさまとともに確かに受けとめ、二一世紀を力強く生きていけるように心身ともに健やかに成長することを切に願っています。

▽また、読者の中にはこのたび、新しく教職員となったかた、退職をされたかた、転任をなされたかたなどたくさんいらっしゃると思いますが、健康に十分注意されたい、新しい生活環境に一日も早く慣れ、それぞれの立場で十分にご活躍されることを願うとともに、引き続き本誌のご愛読も併せてお願いしたいと思います。(S・K)

▽通勤の途中で、ピカピカのランドセルを背負い、楽しそうに学校に向かう新人生に出会うことが多いこのごろです。この子どもたちの

投稿歓迎

●投稿規定

- ①一件につき四〇〇字以内
 - ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可)
 - ③掲載分には薄謝進呈
- ※文章を一部手直しさせていただくことがあります。
- 送り先
〒100 東京都千代田区霞が関三二二二
文部省大臣官房政策課 「文部時報」編集部

『読者からのたより』欄への投稿を歓迎します。本誌を読んでの感想、ご意見等をごしとせ寄せてください。

- 著作権所有——文部省©
- 発行所——株式会社 きょうせい
本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(営業所) 〒162 東京都新宿区西五軒町4-2
電話 03-268-2141(代表) 振替口座 東京9-161番
- 印刷所——株式会社行政学会印刷所

定価500円(本体485円)(〒61円)
年間購読料6,000円(〒共)

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店をお願いします。

●本誌の掲載文のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。